

技術英語研修報告

著者	清水 ひかる
雑誌名	技術報告
巻	27
ページ	47-48
発行年	2022-03-01
出版者	静岡大学技術部
URL	http://doi.org/10.14945/00028641

技術英語研修報告

清水ひかる

(静岡大学技術部機器分析部門)

1. はじめに

昨年度に引き続き、今年度も技術英語研修を開催したので報告する。開催日は8月30日、9月30日、参加者は4名、開催形式はZoomを使ったオンライン形式を採用した。

2. 背景と目的

2.1 静岡大学の留学生

2021年5月時点の静岡大学の受入留学生数は338名である。^[1]また、静岡大学の理工系専攻では、修士課程、博士課程ともに英語のみで課程を修了することができる^[2]と謳っている。^[3]つまり、これに該当する留学生は英語のみで不自由なく研究活動を行うことができると保証されており、彼らの研究を支援する我々技術職員には英語能力が必須であると言える。

2.2 静岡大学事務系職員グローバル化研修^[4]

静岡大学では「静岡大学事務系職員グローバル化研修」が毎年開催されている。この研修の対象者は常勤の事務系職員であり、技術職員も受講することができる。しかし、技術職員の業務に必要な専門的・技術的な英語表現は、この研修で学ぶことはできない。

2.3 これまでの技術英語研修

技術職員が技術的な英語を学ぶための研修、「技術英語研修」というものがある。主には大学連携設備ネットワークが全国の技術職員向けに開催しているが、^[5]近年は各大学内の研修という形で開催されることが増えてきた。静岡大学では2020年2月に機器分析部門内研修という形で開催され、その後2020年9月には静岡大学技術職員全体に向けた技術英語研修という形で開催された。そして今年度、二度目の技術英語研修が開催された。

2.4 目的

今回の技術英語研修の目的は、技術職員の業務に繋がる実用的な英語研修を開催することである。また、技術職員全体の英語能力の向上と、今後の継続的な学習に繋げることを狙った。

3. 研修内容

3.1 事前準備

業務に繋がる実用的な研修プログラムを作成するため、研修参加者に事前アンケートを行った。アンケート結果より、英語での電話応対、メール作成、資料作成等の能力向上を希望する声が見られた。そのため、スピーキングとライティングの両方を含んだ研修を行うことにした。

講師は、大学連携設備ネットワークの技術英語研修で講師を務める梅村氏に依頼し、Zoomやメールで打ち合わせを重ね、研修参加者の希望に沿うようなプログラムを作成した。

3.2 研修プログラム

研修プログラムを表1に示す。両日とも午前にはライティング、午後にはスピーキングを行った。ライティングでは参加者が過去に作成した資料やメール文を用いてpeer readingを行った。スピーキングでは自分の業務を英語で説明したほか、事前アンケートの回答をもとに場面設定されたroll playを行った。

表 1. 研修プログラム

8月30日	
10:00～10:05	はじめに
10:05～10:30	[Warm-up] Paraphrasing を練習しよう
10:30～12:00	[Workshop] Peer reading でユーザー向け手順書を仕上げよう
13:30～14:00	[Warm-up] テンポよく疑問文を作ろう
14:00～15:00	[Workshop] 自分の業務を説明してみよう、他のみんなは質問してみよう
15:00～15:30	講師の話、Q&A
9月30日	
10:00～10:05	はじめに
10:05～10:30	[Lecture] メールの書き方を学ぼう
10:30～12:00	[Workshop] メール文を peer reading しよう
13:30～14:00	[Warm-up] 電話でよく使いそうなフレーズを練習しよう
14:00～15:00	[Workshop] 電話で対応してみよう (roll play)
15:00～15:30	まとめ

4. 研修成果と今後の課題

研修後に行ったアンケートでは、参加者全員が研修に満足し、研修内容が今後の業務に役立つものだったと回答した。また、「peer reading を今後の業務に取り入れる予定だ」「roll play が良いイメージトレーニングになった」「研修後も学習を継続したい」といったポジティブなコメントも寄せられた。本研修の目的である、業務に繋がる実用的な英語研修の開催が達成できたと言える。

今後の課題としては、来年度以降も技術英語研修を継続して開催することと、多くの参加者を募ることが挙げられる。また、外部講師を招いた年に一度の研修だけでなく、技術職員同士で英語能力の向上を目指す学習コミュニティの形成が理想と考える。

5. まとめ

技術職員を対象とした技術英語研修を開催した。各参加者の業務に繋がる実用的な内容になるようにプログラムを作成し、研修後のアンケート結果から目標の達成が示された。今後は、技術英語研修の継続的な開催や、技術職員間の自己学習が課題となるだろう。

6. 謝辞

本研修にご参加いただきました教育研究第一部門の小池様、教育研究第二部門の阿部様、機器分析部門の三宅様、また、研修講師を快く引き受けてくださり、プログラム作成にもご尽力いただきました梅村綾子先生に深く感謝を申し上げます。

引用文献

- [1] 静岡大学：「静岡大学国際連携推進機構ホームページ」, <<https://www.suoic.shizuoka.ac.jp/>> (2022年1月20日データ取得)
- [2] 大学連携研究設備ネットワーク：「人材育成情報」, <<https://www.eqnet-portal.jp/eq-study>>